私的録音補償金の分配の流れ

平成17年6月30日 社団法人 私的録音補償金管理協会

私的録音補償金分配報告 (平成 16 年 4 月 1 日~17 年 3 月 31 日)

社団法人私的録音補償金管理協会

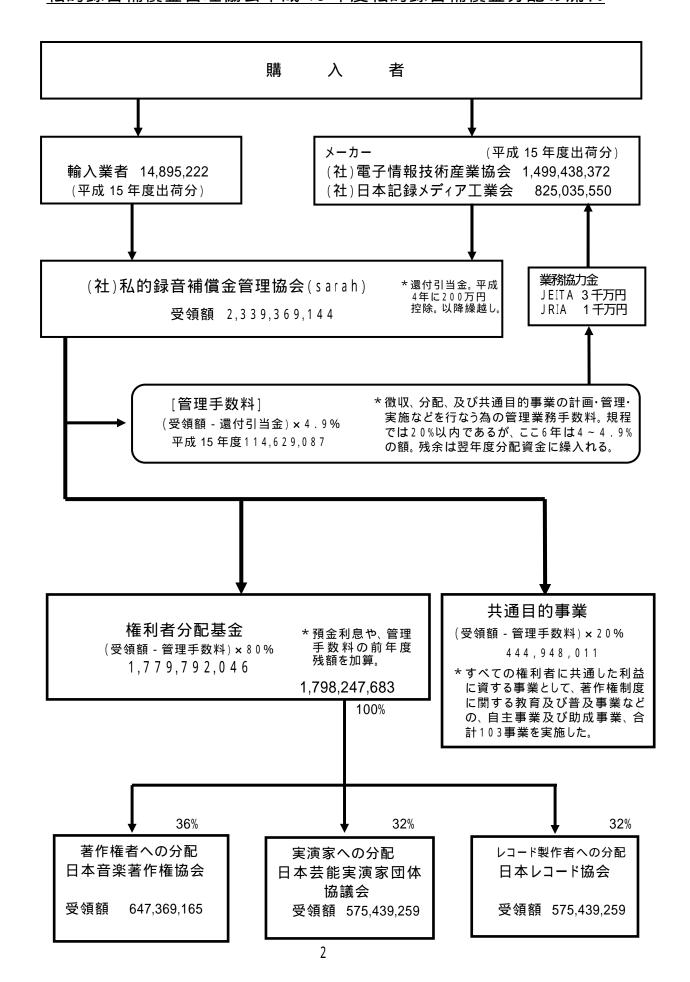
私的録音補償金管理協会(以下 s a r a h という。) は、平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日までの間(平成 1 5 年度中)に、各製造業者から出荷された特定機器と記録媒体に係る私的録音補償金(以下補償金という。)を、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)と(社)日本記録メディア工業会(JRIA)から、平成 16 年度中に受領した。このほか、特定記録媒体の輸入業者については、輸入業者から個別に補償金を徴収した。

平成 16 年度中に徴収した補償金の各権利者団体に対する分配、及び各団体の分配状況は次のとおりである。

以上

- 1.私的録音補償金管理協会平成 16 年度私的録音補償金分配の流れ
- 2. 平成 16 年度私的録音補償金分配額
- 3. 日本音楽著作権協会平成 16 年度私的録音補償金分配の流れ
- 4. 日本芸能実演家団体協議会平成 16 年度私的録音補償金分配の流れ
- 5. 日本レコード協会平成 16 年度私的録音補償金分配の流れ

私的録音補償金管理協会平成 16 年度私的録音補償金分配の流れ



平成16年度私的録音補償金分配額(消費税を含む)

(単位:円)

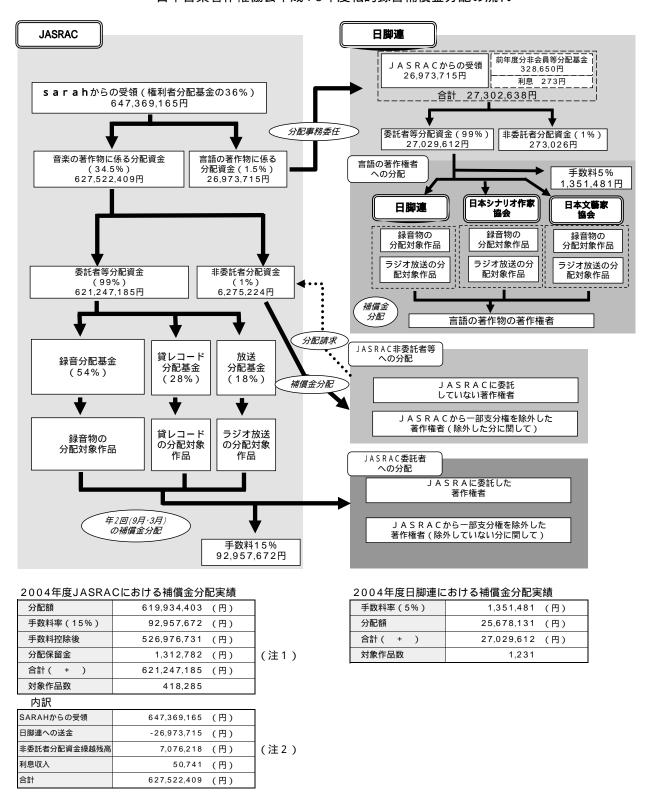
平成17年6月30日

補償金受領額	分配総額	正会員3団体への分配内訳	正会員3団体への分配内訳 構成団体の分配格 分配内訳		分配総額	預
		<u>1,798,247,683</u>	23 HOT 3 III (1,505,219,834		
2,339,369,144 a	1,798,247,683 [A] (受領額の76.87%)		団 体 名 分 配 額	控除及び戻入=* (利息·計算端数)	分 配 額	比率[:A]
		日本音楽著作権協会	日本音楽著作権協会	16年度分配手数料15%		
			34.5% 620,395,450	非会員分配基金1%	526,976,731	29.31%
				* 非委託者分配資金繰越残高		
[内訳]	[内訳]	権利者分配基金の36%	日本脚本家連盟 1.5% 26,973,71	分配手数料5%	25,678,131	1.43%
機器 1,499,438,372	控除合計 559,577,098	<u>647,369,165 (36%)</u>	(シナリオ作協・文藝家協会を含む)	非委託者分配基金1%	23,076,131	1.43//
媒体 825,035,550	(管理手数料4.9% 114,629,087)	日本芸能実演家団体協議会		分配手数料20%		
輸入媒体 14,895,222	(共通目的基金20% 444,948,011)		クレーム基金2%		420,090,848 23	23.36%
		権利者分配基金の32%		*前年度クレーム基金戻入	420,090,046	23.30%
	戻入合計 18,455,637	<u>575,439,259 (32%)</u>		共通目的基金10%		
	(一般会計収支差額ほか)	日本レコード協会		分配手数料10%		
				クレーム基金10%	532,474,124	29.61%
		権利者分配基金の32%		*クレーム基金残高繰り入れ	332,474,124	29.01/0
		<u>575,439,259 (32%)</u>		*業務手数料実額控除後残額		
		合 計 <u>1,798,247,683</u> (100%)			1,505,219,834	83.70%
100%		76.87%			64.34%	THE PARTY OF THE P

a:平成15年度出荷分であり、平成16年度に受領・分配した補償金。

平成16年度決算時の消費税込みの額。平成17年4月28日開催第3回の法制問題小委で配布された、資料2-2、12ページの参考資料 「私的録音補償金の推移」グラフ上の平成15年度合計補償金額の数字は消費税抜きの額表示であり、これと異なる。又決算時に輸入業者分約6634千円が加算された。

日本音楽著作権協会平成16年度私的録音補償金分配の流れ



(注1) 分配保留金:

作品単位で分配先等が未確定であるなどの理由により保留している補償金。確定次第分配する。

(注2) 非委託者分配資金繰越残高:

補償金を分配した後の前期「非委託者分配資金」の残高。

日本芸能実演家団体協議会平成 16 年度私的録音補償金分配の流れ

sarah からの補償金受領額 = 575,439,259 円(平成 15 年度出荷分補償金額)

【クレーム基金 2%】 11,508,785円 【クレーム基金戻入】 14,060,907円 非会員を含め、分配されなかったものへの対応資金。使用されなかった部分については、次年度の権利者分配資金に繰り入れる。

【業務手数料 20%】

(受領額 - クレーム基金) × 20% 112,786,095 円 実演家への分配に必要な「データ = 資料」を 独自に収集管理する必要があり、権利者属性 に応じたデータを収集し、集積することで権 利者への分配を実現していることに伴う費 用である。

	権利者分配資金 = 420,090,848 円					
部門	放送(30%)	録音物 (40%)	貸レコード(30%)			
	126,027,255 円	168,036,338 円	126,027,255 円			
区分	音 楽(70%)88,219,079円	レコード(100%)168,036,338円	レコード(100%)126,027,255円			
	・邦盤(80%)70,575,263 円	・邦盤(88%)147,871,977円	・邦盤(94%) 118,465,620 円			
	・洋盤(20%)17,643,816 円	・洋盤(12%) 20,164,361 円	・洋盤(6%) 7,561,635 円			
	非音楽(30%)37,808,176 円					
分配	平成 15 年度二次使用料	平成 15 年度貸レコード使用料	平成 15 年度貸レコード使用料			
方法	分配実績にて分配	分配データを利用して分配	分配実績分配			

国内権利者 7,543 名に分配

(社)日本音楽事業者協会、(社)音楽制作者連盟、演奏家権利処理合同機構ミュージックピープルズネスト、映像実演家権利処理合同機構、(社)日本歌手協会

海外権利者団体7カ国に分配

AARC(米)、ADAMI(仏)、SENA(蘭) AIE(西)PAMRA(英) RAAP(愛蘭)GRAMEX (丁抹)

共通目的基金 = 45,114,438 円 (10%)

実演家はひとりで活動するのではなく、実演家全体によって支えられる社会的、歴史的背景の中で位置づけられ実演活動を行っている。そのため、関係する権利者の拠出の合意をもとに、芸能活動の進行、実演家の地位向上等の実演家共通の利益のために、その一部を使用することが求められている。

日本レコード協会 平成16年度私的録音補償金分配の流れ

(社)私的録音補償金管理協会 (sarah)

レコード製作者分 575,439,259円

<受領時期>

15年度上期出荷分:16年 5月 15年度下期出荷分:16年11月

(社)日本レコード協会

(RIAJ)

受領額×10%

(注1)

業務手数料: 57,543,925円

残金は、17年 6月 12月に権利者に再分配

(注2) 受領額×10% フレーム基金: 57,543,925円

15年度受領額からの繰入

16年度 受領額 <u>460.351.409円</u>

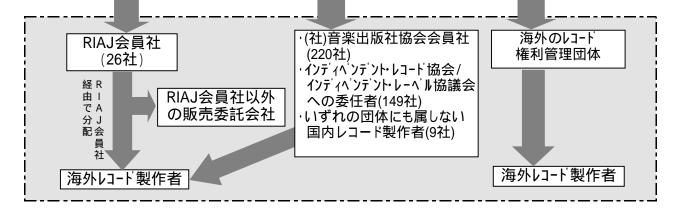
15年度分配 ル-ム基金残高 <u>57.199.707円</u>

15年度分配 業務手数料実費 控除後の残金 <u>14,861,407円</u>

分配額合計: 532,474,124円

銀行利息等 61,601円

<分配基準>							
放送区分	邦盤(65%)	62,299,434円	「ディスクレコート正味出荷金額シェ				
(18%)	洋盤(35%)	33,545,827円	ア」に基づ⟨分配				
購入レコード区分	邦盤(76%)	218,527,478円	「レコード(貸与レコードを除く)正味				
(54%)	洋盤(24%)	69,008,634円	出荷金額シェア」に基づ⟨分配				
貸与レコード区分	邦盤(93%)		「貸与レコード正味出荷金額シェ				
(28%)	洋盤(7%)	10,436,436円	ア」に基づ⟨分配				



注1:業務手数料の実額を分配実施前に把握することはできないため、RIAJ業務規程に従い一旦10%を控除した上で、業務手数料実額の確定後に残金を権利者に再分配する。なお、15年度受領額に係る実質手数料率は7.85%であった。

注2:RIAJ分配規程に従い、新規の分配請求者に対する分配引当金として、受領額の10%を留保する。残金は権利者に再分配する。